【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第５区分
【発行日】平成18年11月24日(2006.11.24)

【公開番号】特開2006-123706(P2006-123706A)
【公開日】平成18年5月18日(2006.5.18)
【年通号数】公開・登録公報2006-019
【出願番号】特願2004-314338(P2004-314338)
【国際特許分類】
Ｂ６０Ｃ　11/04　(2006.01)
Ｂ６０Ｃ　11/13　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６０Ｃ　11/04　Ｈ
Ｂ６０Ｃ　11/04　Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成18年10月10日(2006.10.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１】
車両装着時におけるトレッドの少なくとも赤道から車両外側の領域に、タイヤ周方向に延びる陸部とその外側に隣接する主溝とを設け、前記陸部に前記主溝に片端のみ開口して斜めに延長し、かつ溝幅が一定であるか又は溝端に向かうほど漸減する傾斜ラグ溝をタイヤ周方向に複数本間隔をおいて設けたタイヤであって、前記傾斜ラグ溝のタイヤ幅方向外側の溝壁がトレッド法線方向に対してなす傾斜角度を、前記主溝に対する開口側から少なくとも溝長さ方向中央まで漸増するように形成した空気入りタイヤ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
サーキット走行では旋回走行時の横加速度が通常走行時に比べて非常に大きく、略真横から力が作用することが分かっている。このような略真横からの力に対して、タイヤが高い操縦安定性を確保するようにするためには、トレッド面を出来るだけ有効に接地させるようにすることが重要である。このための対策としては、トレッド面に設けた溝について、そのタイヤ幅方向外側の溝壁角度（トレッド面法線方向に対する溝壁角度）を大きく形成することが有効であることが知られている（特許文献１等）。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
本発明の目的は、上記のようにトレッド面の主溝に片端だけが開口する傾斜ラグ溝を設けたタイヤにおいて、サーキット走行等で生ずる偏摩耗や操縦安定性低下を防止する空気入りタイヤを提供することにある。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
上記目的を達成する本発明の空気入りタイヤは、車両装着時におけるトレッドの少なくとも赤道から車両外側の領域に、タイヤ周方向に延びる陸部とその外側に隣接する主溝とを設け、前記陸部に前記主溝に片端のみ開口して斜めに延長し、かつ溝幅が一定であるか又は溝端に向かうほど漸減する傾斜ラグ溝をタイヤ周方向に複数本間隔をおいて設けたタイヤであって、前記傾斜ラグ溝のタイヤ幅方向外側の溝壁がトレッド法線方向に対してなす傾斜角度を、前記主溝に対する開口側から少なくとも溝長さ方向中央まで漸増するように形成したことを特徴とするものである。